

長野県木曽郡における 電子処方箋への取り組み

長野県立木曽病院

〒397-8555

長野県木曽郡木曽町福島6613-4

TEL 0264-22-2703

院長 濱野英明

<https://kiso-hosp.jp/etc/contact>



どうして電子処方箋を
目指すのでしょうか？

長野県木曽郡での取り組み

- **木曽医療圏（人口25000人弱）**
- **医療資源が乏しい
（1病院、10診療所、10調剤薬局）**

長野県木曽郡での取り組み

- **新型コロナで医療は逼迫した**
- **日本の医療の問題が露呈**
- **諸外国ではオンライン診療と電子処方箋の運用で、医療の逼迫が軽減された**

長野県木曽郡での取り組み

- ・医療資源の乏しい木曽医療圏では次に訪れる医療の有事に備える必要大
- ・木曽病院では電子処方箋を逸早く導入しよう！

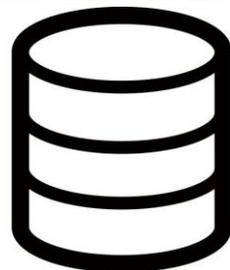
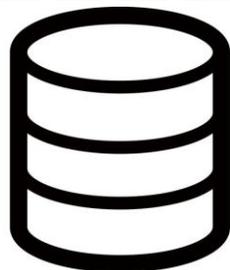
令和5年8月29日運用開始

電子処方箋導入普及の目的

- 処方時、調剤時に、
併用禁忌・重複投薬がチェックされる
- 医療の有事への備え

電子処方箋管理サービス

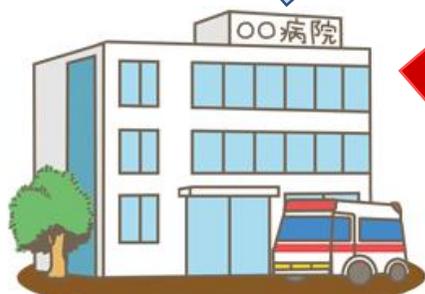
処方情報



調剤情報

電子処方箋
&
紙の処方箋

全ての
医療機関からの
全院外処方箋
(電子、紙)



電子処方箋対応済
医療機関

併用禁忌
重複投薬
のチェック



電子処方箋対応済
調剤薬局

長野県木曽郡での取り組み

- **医療機関：1病院（本院）で運用開始**
- **調剤薬局：9薬局で運用開始（予定含）
10/5現在、7薬局で実際に運用**
- **木曽郡住民の多くの調剤情報が登録**

長野県木曽郡での取り組み

電子処方箋のメリットを

(併用禁忌・重複投薬のチェック)

十分に享受できるユートピアに！

- ・木曽郡住民の多くの調剤情報が登録

木曽病院が考える 電子処方箋導入の第一目標

- 全医療機関と調剤薬局が電子処方箋
ミニマムスタートを目指す
- 併用禁忌・重複投薬のチェック機能が有効に働く

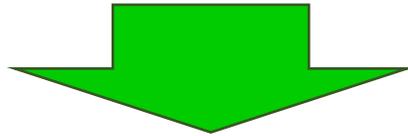
木曽病院が考える 電子処方箋導入の**第一目標**

医療機関のミニマムスタート

- HPKIカード取得：**まず医師1名**（非常勤可）
- システム改修等（カードリーダー設置も）
本院では250万円余（補助金利用で**自院負担 2/3**）

木曽病院が考える 電子処方箋導入の第二目標

- 全医療機関は医師のHPKIカード取得率を高める
- 電子処方箋の円滑な開始へ



- 医療の有事に備える

長野県木曽郡・木曽病院での逸早い電子処方箋の導入、その理由

木曽病院では令和5年8月29日より電子処方箋の運用を開始しました。
病院としては全国で19番目、長野県の病院では初となります。

電子処方箋の運用開始は、医療資源の乏しい木曽医療圏にとって、どんな意義があるのでしょうか。

新型コロナによって日本の医療の問題点が露呈しました。

ご存じのように、軽症の患者も医療機関を直接受診することで医療現場は逼迫しました。

一方で、「オンライン診療」と「電子処方箋」の仕組みが整っていた海外では、軽症の患者は医療機関を直接受診することなく投薬を受けることができていました。

今後、また新型コロナ感染患者が増加して医療現場が逼迫するような、いわば「医療の有事」が発生した場合には、先進的な海外に準じて「オンライン診療」と「電子処方箋」の仕組みが整っていれば、少なくとも軽症の患者の分だけは医療の逼迫を和らげることができると考えられます。

ただし、令和2年当時、日本ではその仕組みは確立していませんでした。

令和2年4月「オンライン診療」の時限的・特例的な措置による「オンライン診療・電話診療」が令和5年7月末までは認められることとなりました。おそらく、再び「医療の有事」になれば、時限的・特例的な「オンライン診療・電話診療」の特例が認められるかもしれません。

しかし、電子処方箋の仕組みは一朝一夕にはできません。医師・調剤薬局薬剤師の電子署名、そして電子処方箋に対応したシステムの改修の3つ全部が揃わないと電子処方箋は実現しないのです。

医療資源の乏しい木曽医療圏で次に訪れる医療の有事に備えるため、木曽病院では電子処方箋を逸早く導入しよう！と取り組んできたのです。

紙の処方箋はそれが原本ですから、処方箋そのものを手渡しする、郵送する、先にFAXして後に渡すなどがどうしても必要でした。しかし、電子処方箋そのものはクラウドの電子処方箋管理サービスにありますので、正しい方法で患者の本人確認ができれば、紙の控えはなくても投薬は実行可能なのです。

また、当院の呼びかけにより、既に木曽医療圏の10薬局のうち7薬局は電子処方箋に対応しており、2薬局もまもなく運用開始を予定しています。この割合は全国的にもトップ水準の高さです。

極端な話、調剤薬局で電子処方箋対応済が100%に近付けば、国内のほぼ全ての院外処方箋に基づく調剤情報が電子処方箋管理サービスに格納されるため、医療機関含めシステムを改修すればすぐに、平時における電子処方箋の最大の売りである併用禁忌と重複投薬のチェック機能を有効に利用できます。

木曽郡の住民の多くが木曽郡内の電子処方箋対応済調剤薬局で薬をもらっていると考えれば、当院以外の電子処方箋未対応の医療機関からの紙の処方箋の調剤情報も、電子処方箋管理サービスにほぼリアルタイムに格納されて併用禁忌等のチェックの対象となり、自身で管理できるようになっているのです。

いうならば「**長野県木曽郡は、電子処方箋のメリットを十分に享受できるユートピア!**」です。

最後に、当院がご提案する、医療機関での電子処方箋導入の形をお聞き下さい。

まず、全医療機関は、調剤薬局と共に電子処方箋のミニマムスタートを目指しましょう。
これだけでも、併用禁忌・重複投薬のチェック機能が有効に働くのです。

医療機関において電子署名にHPKIカードを使用する場合は、まず1枚でもいいので、カードを取得しましょう。非常勤の医師でもかまいません。

また、並行してシステム改修も行いましょう。ご参考までに、当院の導入経費は約250万円でした。
補助金がありますので、負担は3分の2になります。

次に、改修後のシステムでデータを登録、閲覧する運用に慣れながら、全ての医師が電子署名ができるよう、HPKIカードの取得率を高めるなど取り組みましょう。

この手順を踏むことで、医療機関では円滑に電子処方箋を運用できるようになるのです。

電子処方箋の運用が広がることで、本来のメリット（併用禁忌・重複投薬のチェック）がさらに効果を発揮します。まだ運用を開始されていない医療機関、調剤薬局は是非前向きにご検討ください。
ご不明な点などがございましたら、当院での経験がお役に立てることもあるかもしれません。
お気軽にメール等にてお問合せください。

<https://kiso-hosp.jp/etc/contact>

長野県立木曽病院 院長 濱野英明